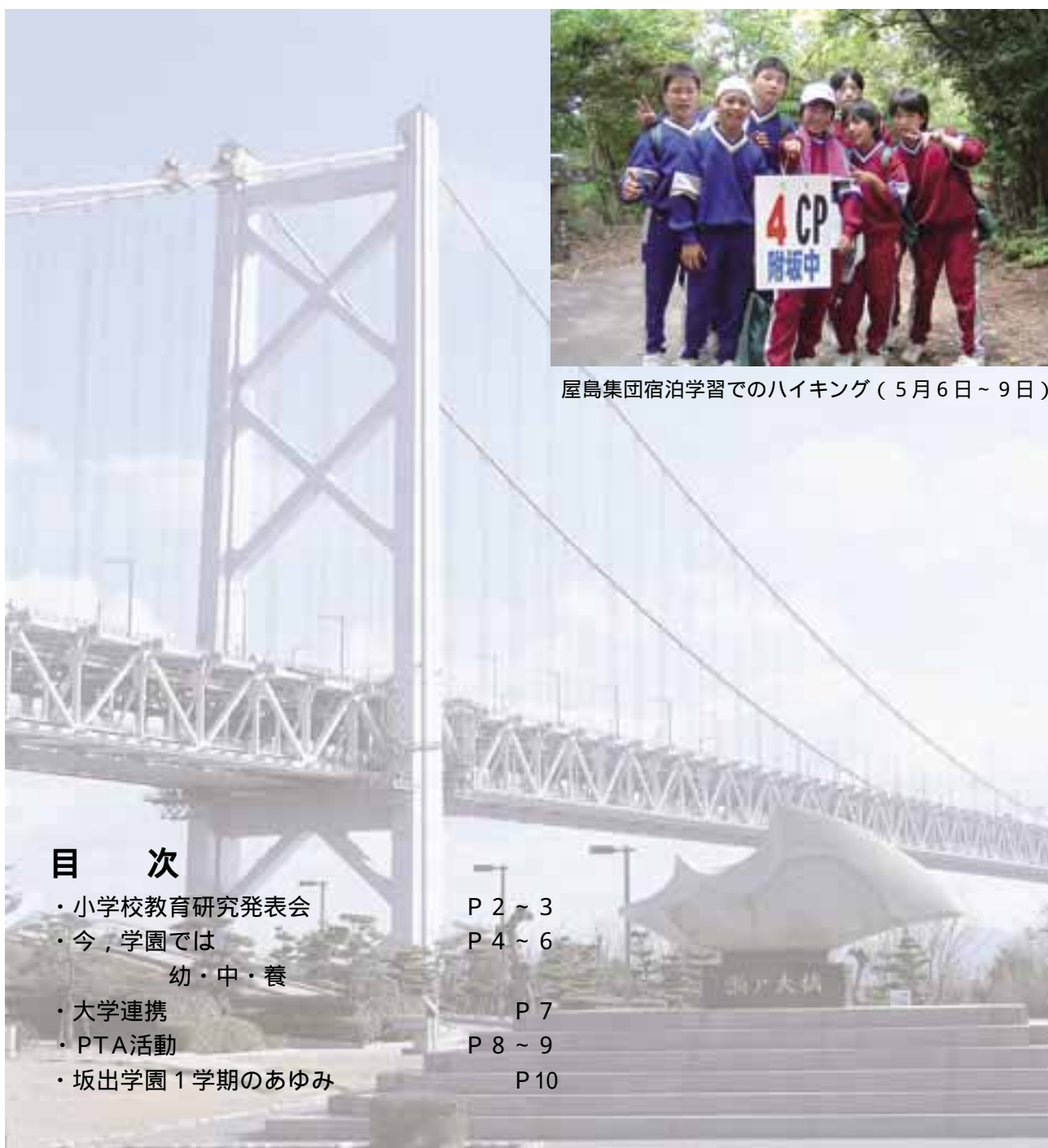


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第21号

2005.7



屋島集団宿泊学習でのハイキング（5月6日～9日）

目次

- | | |
|------------------|---------|
| ・小学校教育研究発表会 | P 2 ~ 3 |
| ・今、学園では
幼・中・養 | P 4 ~ 6 |
| ・大学連携 | P 7 |
| ・PTA活動 | P 8 ~ 9 |
| ・坂出学園 1 学期のあゆみ | P 10 |

21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上

＝「思考力」を育成する授業コーディネート＝

5月26日(木)27日(金)の両日、第89回教育研究発表会を開催いたしましたところ、県内外より、700名近い熱心な参会者を迎え、盛会裏に終えることができました。

最近、行政から民間レベルまで、教師の授業力向上への気運が高まっていますが、本校でも「教材開発」と「子どもの反応の組織化」(＝授業コーディネート)こそが授業力向上の鍵であることを、研究授業や協議会を通して提案いたしました。

また、1日目の午後は、都留文科大学の鶴田清司先生、兵庫教育大学の佐藤真先生、大阪市立大学の木原俊行先生をお招きしてのシンポジウム、2日目の午後は、日本女子大学の吉崎静夫先生によるご講演と、本校の研究の価値づけやご示唆をいただくことができました。

以下に、一部ではありますが、研究会の様子を紹介いたします。

常時活動 「おはなしポケット」(1年)

本校では、「おはなしポケット(読み聞かせ)」「イングリッシュ・タイム」「ことば・トレーニング」「算数ワールド」など学習を支える常時活動を実施しています。特に、「おはなしポケット」は、保護者の方々がボランティアで、読み聞かせをして下さっています。研究会でも、「おはなしポケット」の様子を参会者の方々にご覧いただきました。



牛乳パックのかえるを用いてのお話、工藤直子さんの「てんてんてんのうた」をかくし絵で出あわせたり、ボランティアの方と子どもたちの言葉のやりとりなどを取り入れたりと、子どもたちはあっという間にお話の世界に引き込まれていきました。また、次はどうなるのかなと想像力をかき立てるお話も取り入れ、子どもたちの前頭前野の活性化も図ることができたように思います。

3年算数 「どちらが どれだけ 多いかな」(3年)

3学年の算数では『かさ』の授業を公開しました。やdℓをただ知識として習得するだけでなく、一人一人が「量」としての実感をもてるよう、やかんやバケツ、水筒などの身の回りにある具体的な入れ物を使ってかさ比べの活動をしました。



1日目は、水筒とペットボトルは「どちらが大きいか」を比べました。見た目にはそれほど違いを感じさせない入れ物ですが、実際に水を使って比べてみると、大きな違いがあることがわかり、感嘆の声が上がる授業になりました。2日目は少人数に分かれて、やかんとバケツは「どちらがどれだけ大きいのか」を調べる活動を行いました。単位というものの意味や便利さに気付き、1という量を実際に目にしたときには、歓声が上がりました。

この学習を通して、量を比べるためのよりよい方法を自分たちで考え出したり、単位のもつ意味やそのよさを味わったりすることができ、これからの算数の勉強にも生かすことのできる大切な力を育てることができました。

6年 英語 「Let's make a salad!」(6年)

"Which vegetables do you need?" "I need cucumbers, because they're juicy."

たくさんの野菜の中から、オリジナルサラダに使う野菜を選び、それらの野菜を選んだ理由やサラダの内容を友達に伝える活動を行いました。

子どもたちは、今まで学習してきた単語や会話文を用いたり、ジェスチャーを使ったりして、自分の選んだ野菜とその理由を相手に伝えよう意欲的に取り組むことができました。また、聞き手も友達の考えを聞き逃さないよう、目を見ながらしっかりと聞こうとしていました。



JTE(日本人英語教員)やHRT(学級担任)との英語によるコミュニケーションを通して、英語が相手に伝わることの楽しさや、理解できることのうれしさを感じ取ることができたように思います。

○シンポジウム○「『思考力』を育成する授業コーディネート」

1日目の午後に、鶴田清司先生、佐藤真先生、木原俊行先生をお招きして、シンポジウムを開催しました。第1部は「教師の授業力向上について」、第2部は「教師が、授業の反省をどのように今後に生かすかについて」それぞれの立場から、ご意見をお聞きすることができました。



各先生方からは、附属坂出小学校の研究について、実際の授業を例に挙げながら話していただきました。本校が取り組んでいる授業コーディネートが、実際に授業をしている子ども達の姿を見ると、一人一人の着実な力になっていることが感じられ、非常に意義のあるものとなっていることや、今後の研究のさらなる方向のアイデアもいただくことができました。職員が一丸となって子ども達のために、さらに研究を進めていく決意を新たにすることができました。



○講演○「新教育課程で育てる学力と新しい授業づくり」

研究会2日目午後には、吉崎静夫先生(日本女子大学)より、上記の演題で、ご講演をしていただきました。

昨今取りざたされている、子どもの学力低下の大きな要因は、「学習意欲」の低下であり、その克服のために我々教師は、知的好奇心をもたせたり、有能感を感じさせる授業づくりを行ったりする必要があることなど、日々の実践の指針となるお話を聞かせていただくことができました。



また、今後、子どもたちには「与えられた」課題を解決する力ではなく、課題を「自ら見出す」力をつけていくことや、教師の「指導」と「支援」をうまく融合させて子どもにつけるべき学力を育成することなど、これからの新教育課程で育てたい学力についても、本校の授業実践や他校の例を交えながら、分かりやすく解説していただきました。

今回の講演で学び得たことを、日々の実践、さらには今後の研究に生かして参りたいと思います。

青組の小学校体験（幼稚園で実施）



昨年度の小学校体験は、6月・11月に青組が小学校に1週間出向き、小学校の環境下で子ども達が教科に繋がる活動を行うというものであった。しかし、今年度は6月に限っては、小学校の先生が幼稚園にきて指導していただくという形をとったため、子どもが常時生活している青組保育室での実施となった。

その理由は、小学校体験については、すでに2年間の蓄積データがあること、6月の実施は子ども達の負担感や疲労感もかなり大きいといった点からである。普段の慣れた環境の中で小学校的教育内容を施した場合どのような反応があるのか、また、環境と学習の相関はどうかを見極めたいと考えた。

実際の活動は下記の通り。

6月8日「数で遊ぼう」「歌・リズム遊び」、6月9日「夕涼み会について話し合おう」「英語で遊ぼう」、6月10日「粘土で遊ぼう」、6月14日「ことば遊び」、6月16日「1年西組と遊ぼう」等。

実施してみて、過去2年間と比べ、保育室という安定した環境で活動を行った場合、子どもの精神的な面での緊張感が小さかったように思われる。その反面、活動内容の理解は、昨年とそれほどの変化は見られなかったものの、学習の規律については担当の小学校の先生から、指導の大変さも指摘された。

幼・小間教育の接続の在り方については、現在全国的に交流や連携が推進されている段階である。今後、幼稚園並びに幼小部会・特別支援部会においても、ビデオや観察者の意見交換等から検証し、5歳児の教育をどのように改善していくか、研究を深めていきたい。

プール遊びが始まったものの...



6月14日にプール開きを行う。色とりどりの水着を着て、お気に入りのサンダルを履き園庭に集まった子どもたちは、どの子にもこやかな顔をしている。とにかく「早く水に入りたい」というのが本音なのだろう。プール開きの際の長いお話(諸注意)をいつも以上によく聞いている。シャワー

をすると、待ってましたとばかりにプールに入り、思う存分に親しんでいる姿が見られた。この日は、香川大学教育学部の一年生17名が学校教育入門で幼稚園にきていたが、子ども達とともに水びっしょりになっている学生もいた。

プール遊びの目的は「水に全身で親しむことや水への抵抗感をなくし楽しく遊ぶ」といった点である。

渇水により、6月28日からプール遊びは中止となったが、短い期間でも水とかわって過ごせたと思う。



プール遊びって楽しいな

「『生きること』と『学ぶこと』の統合」をめざして

人はなぜ学ぶのでしょうか。それは「自分の夢の実現に向け、よりよく生きていくため」と言えるでしょう。つまり、「よりよく生きる」ためには、生涯にわたって「学ぶこと」あるいは「学び続けること」が求められるのです。このように、よりよい生き方や在り方を求める限り“生きることは学ぶこと、学ぶことは生きること”として、それぞれが独立して存在するものではありません。

本校では今、「『生きること』と『学ぶこと』の統合」をキーワードとして、豊かな学びを育む総合的なカリキュラムの研究を進めています。その中で、各教科の学習や道徳、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）などで共通する価値や内容を見出し、それらを接点として互いに関連付けようとしています。このことにより、これまで以上に効果的でより充実した学習が展開でき、一人一人の子どもたちに自己実現を図る資質・能力を身に付けさせることができると考えています。

1 年 団

本年度の新入生119名は、「踏み出せ、一歩！」を学年団目標とし、さらに学級目標を、1組は「輪」、2組は「誠」、3組は「熱血池下組」として、元気よく中学校生活をスタートさせました。

4月14日(木)、1年団「歩く日」では、聖通寺山頂上まで全員で登山しました。昼食後、学級対抗の「長縄飛び大会」をし、新たな仲間集団となった学級の結束力をはかりました。その後各班に分かれて、帰校途中の史跡を探訪し、坂出の町を知るとともに、これから中学校の学習で必要とされるフィールドワークのノウハウも勉強しました。各班協力して調べられた内容は、後日「学級歩く日新聞」としてまとめ上げました。



聖通寺コース



塩竈神社コース



ヒリケの井戸コース



ゆるぎ石コース



八幡神社コース

2 年 団

5月6日から3泊4日の日程で「やって・見て・考える～with my friends～」のテーマのもと屋島集団宿泊学習を実施しました。小雨の降る中でのオリエンテーリング、飯ごう炊飯を皮切りにカッターやサイクリング、魚釣り、ハイキング、そしてキャンプファイアー、海辺の奉仕活動を行いました。日増しにたくましくなり、チームワークもよくなりました。寝食を共にすることで、友情も育まれました。学習の成果はレポートとしてまとめられ、文化祭で展示する予定です。



【カッター訓練】

3 年 団

3年団は4月12日から4泊5日で北海道修学旅行を実施しました。天候にも恵まれ、函館自主研修・火山学習・アイヌ文化学習などを予定通り行うことができました。

また、4月22日の授業参観の際には、「ルールとマナー」という題材で、修学旅行中の出来事を写真をもとに思い起こしながら、道徳の授業を行いました。修学旅行中にも話し合いをした内容でしたが、他のさまざまな場面についても改めて考える機会になったことと思います。校外外で時と場に応じたマナー意識が高まることを期待したいものです。



【道徳の授業風景】

研究（公開）授業【2学期のご案内】

授業はすべて15時10分から16時まで

10月5日(水)	道 徳	半山 章人	12月7日(水)	数 学	木谷 直充
	道 徳	小川 正晃		技 術	氏家 徹也
10月19日(水)	音 楽	十川 裕史	12月14日(水)	道 徳	石川 恭広
	道 徳	佐藤 浩二		外 国 語	尾崎小夜子
11月2日(水)	道 徳	安藤 孝泰			
	保 健 体 育	千木良佳亜			

資料等の準備の関係がありますので、ご参会いただく場合は、教頭(十川)までご一報ください。



高等部は、5月9日(月)前期の集中作業として、日ごろ体験できない農場(香川大学農学部附属農場)での実習をしてきました。

高等部
香川大学農学部
附属農場で
体験実習

作業を「花部」と「果樹部」の二つに分け、大学の長谷川先生と望岡先生に詳しく教えていただきながら作業をがんばりました。

望岡先生には、桃の実の間引き方を教えていただきました。枝の上(表)に付いている実やくっついて実は、小さいうちに間引いておくと、大きな桃に育つそうです。

長谷川先生には、色とりどりの百日草やペチュニアの寄せ植えの仕方を教えていただきました。プランターに土を入れ、花の色の順番を自分で考えて植えていくのがとても楽しかったです。



訓練 訓練

避難訓練!!

5月24日(火)に、大きな地震による校舎の崩壊や、火災を想定した総合避難訓練を行いました。坂出消防署の福本消防指令補さんをはじめ、藤原さん、福原さんの3名の消防士さんが放水車に乗って来てくださいました。私たちの避難の様子を見て、避難のしかたや火災の原因についてわかりやすく教えてくれました。非常時に落ち着いて避難したいと思いました。



こわいよ



初めて見た放水!!
すごいねえ。



附属養護学校では、今年度も3回の実習が計画されています。将来の特別支援教育を担うであろうフレッシュな学生が、多数実習をすることになっています。

地域に支えられた
教育実習

今年度は講師として、坂出市教育委員会の先生方が来てくださることになりました。

第1回は、中井富普教育長様より、ご講話をいただきました。将来の教員をめざす学生に、長年の教育実践の中で先生ご自身が大切にされてきたことを、具体的にわかりやすくお話ししてくださいました。「自分を必要とされる環境づくり」「子どもを期待の目で見るとまなざし」など、教職についてからだけでなく、これからの人生の中で、忘れてはならないことをたくさん教えてくださいました。

第2回にお話をいただいた大前指導主事先生からは、「よい教師になるために必要なこと」、「魅力的な教師とは」など、学生への期待を込めて、これからの学生生活や教員生活に示唆を与えるお話をしてくださいました。

普段から教育委員会にはお世話になっていますが、今回の実習を通して、本校は地域に支えられているということを感じることができました。



香川大学教育学部特別支援教室「すばる」の取り組み

特別支援教室 担当 馬場 広充

本教室は、平成15年4月1日より教育学部と附属坂出学園全体の合同事業としてスタートし、今年で3年目を迎えます。以下に、「特別支援教育」に対する啓発のために、その取り組みの概要をお知らせします。

本教室は、香川県下のLD，ADHD，高機能自閉症，アスペルガー症候群等の幼児・児童・生徒のために、学部と附属幼・小・中・養護学校の教員が協力し、放課後通級にて子どもの個別指導や保護者・担任への教育相談を実施してきました。平成15年度は75名，16年度は103名の申込があり，今年度は6月現在50名の申込があります。このように年々増加の一途をたどり，要請の高さを痛感させられます。以下に，これまでの本教室の主な取り組みを紹介します。



保護者との相談



個別指導の様子



16・2・7 特別講演会実施



16・5・29 開所式



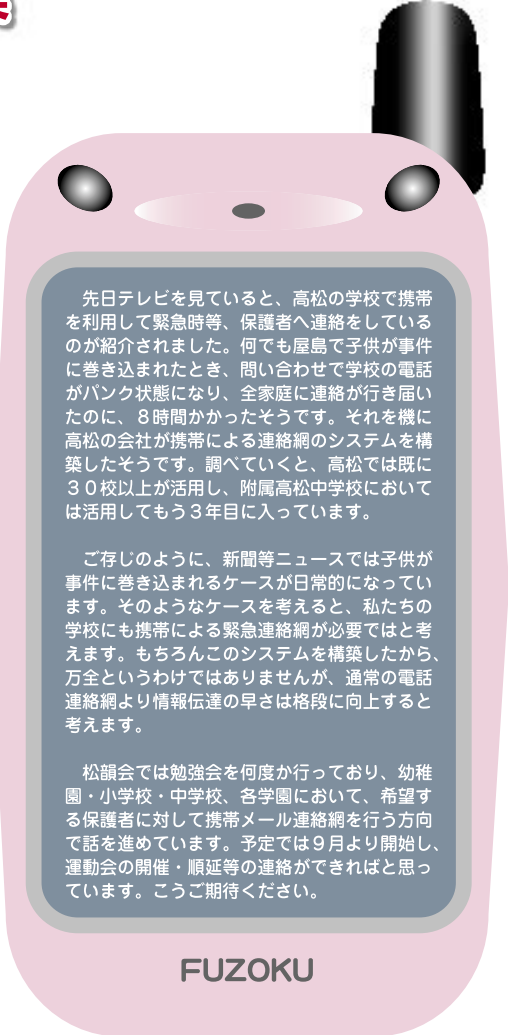
16・7・3 保護者・担任への講演会



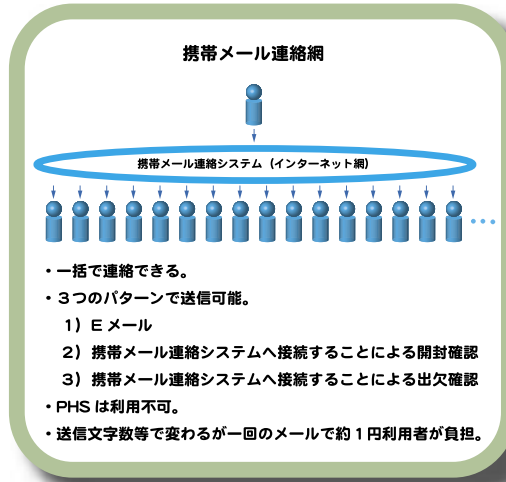
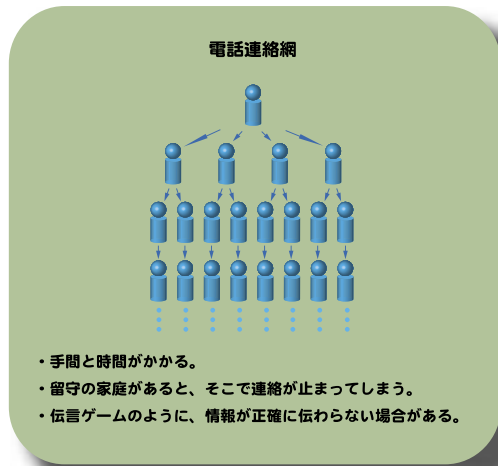
16・7・21 教員対象研修会

特集

携帯メール連絡網について



松韻会だより



幼稚園より

つぶやき

おやつ作り

今年四月から養護教諭の玉井昌代先生のご指導で保護者によるおやつ作りが主に水曜日にはじまりました。以下、玉井先生からお話をうかがいました。

これまで幼稚園で食べるおやつは、牛乳と市販のお菓子が中心でした。また、担任が準備するため、クラスによっておやつの内容が違っていました。時には、季節を感じる果物や自然に近いお菓子を食べさせたいという願いは常にありましたが、保育を中断しておやつを準備をすることができず、市販のお菓子を食べることが多かったのが現状でした。

しかしながら、味覚が発達しているこの時期だからこそ食物に気をつけ、できるだけ自然のものにふれさせたいとの思いが膨らみ、「ほけんだより」を通して保護者に協力をお願いしてみましたところ、たくさんの方が快く引き受けてくださいました。現在は保護者が「おやつ計画」を立ててください、担当者が食中毒に気をつけ、試行錯誤しながらおやつ作りをしてくださっていることに感謝しています。

おやつを通して保護者と子ども、そして保護者同士の繋がりが広がっているのを感じています。これからも無理のない形で続いていくことを願っています。

坂出市PTAバレーボール大会

6月19日(日)に市立体育館で行われ、男子A、B女子Aチームが決勝トーナメントに進出しました。男子Aチームはベスト4に勝ち残りしました。



小学校より

安全委員会で『安全マップ』を制作配布しました。今後は「こどもSOS」のチェックなど附属学園周りの安全チェックを続けていきます。また校内で行われる避難訓練などを安全委員が見学し、保護者の方々にレポート報告することになっています。

昨年からの保護者ボランティアによる読み聞かせが『おはなしポケット』としてスタートしました。今後は松韻会としてもお手伝いします。

6月18日、今年も新入生の親子を対象に『Well Come パーティー』を土曜クラブで実施しました。総勢112名が楽しく交流し、先生ともフランクな会話で親睦をはかりました。

中学校より

附属坂出中学校は、県内の中学校でも珍しい昼食が“お弁当”です。お弁当について、保護者、子どもたちにインタビューしてみました。

—保護者の声—

- ・小学校での給食と比較して栄養が足りているのか、量が充分なのか心配。
- ・学校帰りに塾に行く時、コンビニやファーストフードを利用して昼食をきちんとしたものをとっていないと、偏った食生活を続けるようで心配。
- ・帰宅してお弁当箱を洗う時、完食できているかどうか確認ができることによって体調管理に役だっている。
- ・寝坊した朝、「今日はコンビニで買ってね」と言うのと「えーお母さんの作ったお弁当が美味しいのに」と言う子供。明日は、がんばって作ろうと思いました。

—子ども達の声—

- ・お弁当のほうが給食より良い。(小学校6年間給食だったせいでしょうか)
- ・いつも早起きありがとう。
- ・友達のお弁当がうらやましい。

カラフル おかずの数が多い 卵焼きの色がきれい

毎日のお弁当づくりは、メニューを考えること、遠方通学で朝が早いこと、また共働きの家庭では朝が忙しい等、何かと大変なことも多いとは思いますが、子どもたちには家庭の愛を感じる瞬間であり、思春期の親子の絆、コミュニケーションを深められる大切な機会かもしれません。成長期の“食育”を家庭でも関心を持ち、PTA活動にもとりいれたいと思います。

養護学校より

これからのPTA活動

附属養護学校 親和会会長 江村 敬子

親和会

今年度親和会会長をさせていただくことになりました。附属養護学校保護者の代表として精いっぱい務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

昨年度から親和会は、組織を一新いたしました。本部と5つの部会を作り、PTA会員は全員が5つの部のいずれかに属し、部長、副部長を中心に、1年間の行事等の運営にかかわっていくことになりました。会員全員が、各部会に属することで、いろいろな学校行事やPTA活動を知ってもらいかわりを強めることで、親同士の横のつながりを深めていけたらと思っています。

昨年1年間は、とにかくやってみようということで、各部会と本部との連携がスムーズにいかないこともありましたが、それも話し合いにより解決してきました。PTA活動への参加は、少しずつではありますが、各個人の意識が変わり、人任せではなく自らが参加し、運営していくという気持ちになってきていると感じます。また、学校とのかかわりもさらに深まり、子どもたちの成長の助けにもなっていけるPTA活動にしていきたいと思っています。無理しないで、できることをできるだけしていく、そういう参加をめざしています。今年度の親和会会員は、総勢60名という小さな所帯。だからこそ、親和会独自の、親和会会員のためのPTA活動になっていくことを期待しています。



小学校

5年生屋島集団宿泊学習(6月22日～6月23日)

1泊2日の屋島集団宿泊学習が行われました。フライングディスクゴルフ、焼き板作り、いかだ作りなど友達と協力して取り組みました。



不審者侵入想定避難訓練(7月1日)

2年生の教室に不審者が侵入してきたとの想定で訓練を行いました。訓練とはいえ、緊張した面持ちで、子どもたちは真剣に避難できました。



養護学校

今年も始まりました。放課後活動!

本校では、子どもたちの余暇活動の充実を図るために、月1回放課後活動を行っています。今年は2つのグループに分かれて、取り組んでいます。

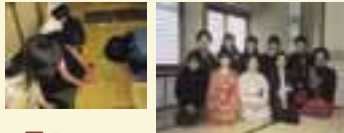
【軽運動グループ】

ダンスやころがし卓球等で汗を流しています。



【茶道グループ】

戸田先生をボランティアティーチャーとしてお迎えし、お作法を習っています。



【歯科指導】(6月30日)

学校医の久保歯科医院 久保郁子先生と香川県歯科衛生士会青木まゆみ先生をお迎えし、中学部生徒・保護者を対象に歯科指導がありました。「口の中がすっきりした」「がんばって歯磨きを続けます」など、歯を大切にしようという感想がたくさん聞かれ、有意義なひとときを過ごすことができました。



幼稚園

歯をきちんと磨こう

幼稚園では、養護教諭がクラスで適宜保健指導を行っています。6月は、歯の話。「はぬけの話」です。この話とともに、6月22日に青組はカラーテスターを行いました。真っ赤になった歯を、いつも以上に丁寧に磨き、鏡で熱心に最終確認を行っている姿がありました。ブラッシングの大切さが意識付いたことでしょう。



保育専門学院生の教育実習

6月20～24日、30人という大勢の学生が附属幼稚園で実習を行いました。附属幼稚園では基礎実習ということで、今後の公立幼稚園実習につながるものです。保育者を目指し、みんな、熱心にメモを取りながら観察したり、プール遊びの指導にあたったりしていました。



中学校

校舎の耐震工事が始まります

今年度の7月から校舎の耐震工事が始まります。工法としてはPCブロックを南北に積み上げ、そのブロックで校舎全体を挟み込むような形で校舎を補強します。右図の黄色い部分がPCブロックです。それにもなると、1学期終業式後から本格的な工事がスタートします。9月からは教室棟の使用できなくなります。各教室はセンター東棟と武道館、そして体育館に分かれての授業になり、工事車両の進入路確保のため、9月の学園運動会も、多少手狭な状態で行わなければなりません。完成は12月の予定です。それまでに、多大なご迷惑をおかけすることと存じますが、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



校内弁論大会(6月9日)

先日、「社会を明るくする運動」の一環としての全校生徒による校内弁論大会が行われました。まず、生徒一人一人が自分の意見や考えをまとめます。次に、それを班単位で発表し、各学級の代表者を選出しました。その代表者が体育館で全校生をの前に自分の考えを立派に主張しました。先日の坂出市の生徒弁論大会に本校から、3年生の櫻井余吏子さんと2年生の藤沢綾香さんが出場しました。その結果、坂出市の代表に藤沢綾香さんが選ばれました。本校357人の生徒の意見や考えの頂点である彼女が、さらに市の代表者として選ばれたことに強い誇りを感じています。



編集後記

1学期様々な行事が行われ、附属学園がまた新しい一歩を踏み出しました。今年は記録的な小雨のため水不足がかなり深刻化しています。普段はあたりまえに使っている水ですが、こんな時に雨のありがたさや、蛇口から自由に使える水のありがたさを感じてしまいます。何気ない生活の中にも、振り返るべき事がたくさんあります。そのような姿勢を大事にして、附属学園の発展のために、今後とも職員が丸くなって精進していきたいと思っております。

発行年月日:2005年7月20日

発行事務局:附属坂出小学校内

編集担当者

塩田 知子 (附属幼稚園)

西浦 雅弘 真鍋 佳樹 (附属坂出小学校)

環 修 十川 裕史 (附属坂出中学校)

斎藤 恵子 岩本 豊 (附属養護学校)